

活動レポート

道南技術士会

機関誌「一步」によるネットワークの強化

—— 年間活動報告を会員に配布、今後関係機関にPR 予定 ——

道南技術士会では昨年3月の総会（2006年（平成18年）3月3日）において、1年間の活動内容を纏めた機関誌「一步」の第1号を創刊し、引き続き今年3月の総会（2007年（平成19年）3月2日）に第2号を発行しました。

年間6～7回実施するCPD研修会の概要をはじめ、セミナーなど当会で実施した内容を纏めた活動報告集で、次回は来年3月の総会時に第3号を発行する予定です。

機関誌は現在、会員の方々にのみ配布しておりますが、今後順次、開発局・大学・行政など関係機関に赴き、技術士制度の活動を積極的に啓蒙・普及し、各方面で理解を深める行動に繋げる計画でおります。

因みに、装丁・印刷などすべて当会内の手作りで、A4版カラー、21～22頁です。

1. 機関誌名「一步」命名の由来

命名者の船山会長（当時）は、「一步」創刊号に次のように記しています。

「道南技術士協議会の社会貢献は、20世紀に蓄積された地球規模の課題など、今日我々が抱えているテーマに取り組む中に潜んでいるのではないのでしょうか。その答えは、回を重ねていく毎年の「活動報告集」により、皆様全員で結論づけていきたいものです。小さくても確実な「一步」を刻んでいけることを願い、報告集の名前を「一步」とすることを提案いたします。」

2. 「一步」第1号 平成17年度活動報告集の概要

■「道南技術士協議会 活動報告集の発行にあたって」

〈要旨〉道南の技術士誕生から今日に至る歴史、即ち「道南技術士協議会の原点」として、1958年（昭和33年）の第1回技術士試験で関昌作氏（北海道庁函館港湾建設事務所）が合格されて以降、1983年（昭和58年）の当会の創設を経て、今日にいたる歴史が記され、さらに、「地域への社会貢献」を掲げる私たちが、今後直面するであろう課題について、船山会長（当時）が述べています。



写真-1 「一步」第1号の表紙

以下、項目のみ紹介します。

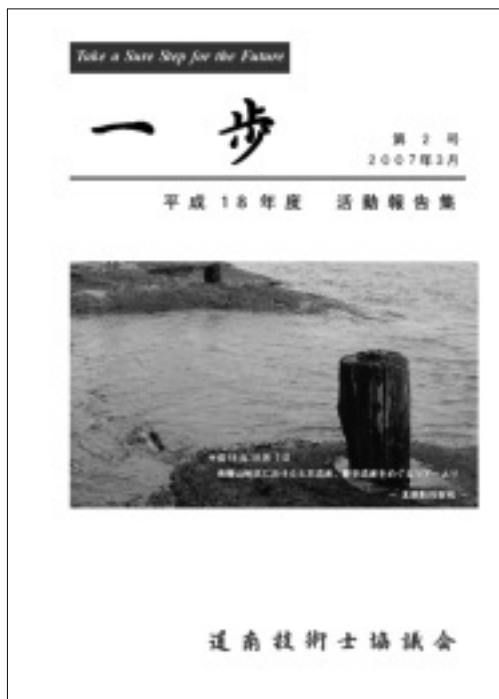
- 「函館国際水産・海洋都市構想の技術研究に関する集い」
- 「流れの科学研修会——北海道大学 吉田先生講演会——」
- 「情報発信ワーキンググループの活動現況報告」

- 「技術士試験対策講習会の実施結果報告」
- 「船上から見る函館港と島防波堤災害復旧」
- 「地域産学官と技術士の合同セミナー——e-ラーニング実施、事前デモについて」
- 「函館市における歴史遺産・土木遺産をめぐるツアーに参加して」
- 「道南技術士協議会規約」
- 「道南技術士協議会 会員名簿」

3. 「一歩」第2号 平成18年度活動報告集の概要

■「「一歩」第2号の発行にあたって」

〈要旨〉 船山会長（当時）が次のように述べておられます。「次の時代のキーワードとして、「価値の創造が価値である時代社会へ（丹保放送大学長）」と「目は無限のかなたを、足はしっかりと大地を（前田多門）」にあるように、今日、人々は複数の分野にまたがる活動を相互に連携させて、社会を構成する努力が必要であります。いよいよ技術士の真価が問われる時がきており、めまぐるしく変化する時流の中であるがゆえに、我々技術士も新たな歩みを進めていかなければなりません。」



写真－2 （「一歩」第2号の表紙）

以下、項目のみ紹介します。

- 「鹿部水産フォーラム “鹿部水産業の未来を考える”」
- 「寒地土木研究所の概要と研究内容について」
- 「南檜山地区における歴史遺産、土木遺産をめぐるツアーに参加して」
- 「CPD 研修会として函館高専公開講座を共催」
- 「函館工業高専 PC セミナーに参加して」
- 「函館の朝イカを全国に——スルメイカの鮮度保持技術の開発——」
- 「活動記録写真集」
- 「道南技術士協議会規約」
- 「道南技術士協議会 会員名簿」

昨今、地域振興を目指し、多様な分野の技術を融合するため、産学官連携・企業間連携など、ネットワークの重要性が注目されています。

道南技術士会においても、50名を越える会員・準会員が所属し、緩やかに連帯して、情報交換をおこないつつ、相互啓発を続けています。

「まずネットワークに参加し、ホットな情報を得て、啓発に役立てる」よう、共に活動している次第です。

今後とも、地域において多くの方々と技術士が“顔が見える信頼のネットワーク”を形成し、より積極的に参加できるテーマを見出し、具体的な検討や、技術交流を進め、企業や研究者、技術者の新たな仲間づくりに努めたいと考えております。



写真－3 （平成19年3月総会風景）

（文責：道南技術士会 副代表 太宰啓至）